

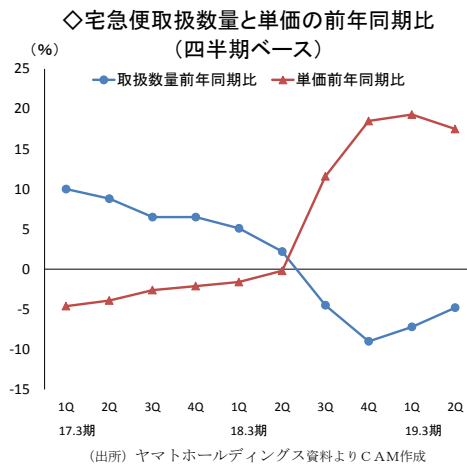
企業ニュース ヤマトホールディングス

(東証1部：9064) <http://www.yamato-hd.co.jp/>

作成者：荒木晶子

デリバリー事業の構造改革が進む

1919年創業の宅配便最大手。19.3期・第2四半期累計の営業収益構成比では、貨物輸送を行うデリバリー事業が約8割を占める。2017年9月に策定した2019年度までの中期経営計画では、最終年度に営業収益1兆6,700億円、営業利益720億円を目指す。働き方改革を中心に据えた改革を進めており、デリバリー事業ではアンカーキャスト（配達特化型ドライバー）の採用強化などのラストワンマイルネットワークの整備や、価格の適正化による収益構造の改善に取り組む。2017年の値上げ以降、宅急便の取扱数量は対前年で減少していたが、10月は前年同月比2%増となった。取扱数量の増加と単価上昇による過去最高益の達成が期待される。



値上げ効果が費用増を吸収し黒字転換

19.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は、営業収益が7,891億円、前年同期比8%増、営業利益が234億円、同363億円増（前年同期は129億円の赤字）。7月31日に修正した上期計画に対して、営業収益で91億円、営業利益で84億円上振れた。宅急便の取扱数量は、前年同期比6%減、単価は同19%増だった。集配体制強化のための人員増や社員の処遇改善、燃料単価の上昇などにより経費が増加したが、増収効果で吸収した。

19.3期の通期会社計画は、営業収益が1兆6,200億円、前期比5%増、営業利益が660億円、同85%増。7月31日の修正計画から、営業収益で50億円、営業利益で50億円を上方修正した。下期はアンカーキャストの採用などの経費が増加するが、値上げによる増収効果で吸収する見込み。大口法人顧客への値上げ交渉を継続する方針で、さらなる単価の上昇を目指す。足元では宅急便取扱数量の増加が確認され、通期計画の達成確度が高まったとみられる。

[株価動向・投資判断]

目新しい材料に欠けるとの見方から株価は下落したようだが、デリバリー事業の構造改革は着実に進んでおり、収益力の改善が評価されて再び上昇しよう。

<9064 ヤマトHD 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	営業収益	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	1,466,852 (4)	34,885 (▲49)	34,884 (▲50)	18,053 (▲54)	45.4	27.00
18.3	1,538,813 (5)	35,685 (2)	36,085 (3)	18,231 (1)	46.2	27.00
19.3 予	1,620,000 (5)	66,000 (85)	66,000 (83)	37,000 (103)	93.8	28.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価(2018/11/12)	2,948.5 円
年初来高値(高値日)	3,559 円(18/9/27)
同 安値(安値日)	2,277.5 円(18/1/4)
予想 P E R (19.3 予)	31.4 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,410.1 円
P B R	2.09 倍
予想配当利回り	0.95 %
(1株当たり配当金28.00円)	
R O E (18.3)	3.3 %
発行済み株式数	41,134 万株